

① 瀬戸大橋記念館 (設計：山本忠司建築総合研究所)

ギリシャ神殿を連想させる建物で、1988年(昭和63年)11月にオープン。

四つのコーナーは角型で、はみ出しは四国の地形をイメージしている。2階と3階を結ぶ屋上の回廊は、「結ぶ」ということで橋をイメージしている。屋上には、七つの尖った屋根があり、夜点灯すると七つの星となる。館内の回廊の天井は、格子状になっており、瀬戸大橋の橋桁をイメージしている。

② KOCHI 東風 (作者：大島よしふみ)

「KOCHI」東風は、春一番に吹く風のこと。

東風が吹く頃、大地は凝縮されたエネルギーを地表に押し出す。強さ 華やぎ 可能性 未来 それは固まりとなって輪を吹き抜けていく。大地と風の吹く空間との接点。そこには何があるのだろうか。そして、そこに生まれる人々…それは、つまり、自然と人との接点。

③ 串 KUSHI (作者：速水史朗)

全体的な形体としては、自然あるいは人を表現している。

中心を通っている円柱は、自然に対して人工的な機械的なイメージを表している。自然と人工の美が溶け合って素晴らしい景観を見せている瀬戸大橋とは、共通したイメージの作品といえよう。「串」という題名は、形体を文章で表現しただけで意味はない。

④ マリンドーム (設計：木島安史+YAS都市研究所)

1, 2, 3 1席を有する国内最大級の木製ドーム。

南・北備讃瀬戸大橋の雄大な造形美を背景にした、休憩・展望・イベント施設。

< 浜栗林 (作者：流政之) >

高松市の栗林公園は背景が紫雲山であるのに対して、瀬戸大橋記念公園は背景が瀬戸内海であることから浜栗林といい、刻月亭・甲之池・鬼屏風・くぐり滝・どだま獅子で庭園を形成している。

⑤ 刻月亭

栗林公園には大名のつくった掬月亭があるが、浜栗林には大名の作ったものよりも明るくより丈夫にできているあずまや、刻月亭がある。巨大な石の親柱や朱塗の天井などが特徴ある和風造りの建物で、ここからのくぐり滝や甲之池の眺めが素晴らしく、茶会をはじめ休憩・展望等に利用できる。

⑥ 甲之池

水深30cm程度の浅池で、周囲の植栽には季節感を醸し出すよう樹種の選定に工夫がなされている。池には、くぐり滝に通じる飛び石を配し、滝、山(鬼屏風)、どだま獅子を背景にした池の展望場所として天台(池の舞台)を設けている。

⑦ 鬼屏風

瀬戸内海に暮らす人達は、古代から海の向こうには鬼がいるという伝説を持ち、外からの攻撃を防ぐために石垣による長い列石の砦を作った。また、漁民たちは、海からの風を防ぐために石で屏風を作り生活を守り続けてきた。このように、さぬきの人々と石の繋がりは深く、その心を表現したのがこの鬼屏風である。

荒い石積の山と、この山の麓から流れる水を躍動させる滝と池が一体となり、景観を楽しませてくれるものとなっている。

⑧ くぐり滝

幅50mを擁する大滝は、水が乏しいさぬきにあっては、新たな空間を造り出し、形のみしさばかりでなく、落下水音は公園全体に響き、瀬戸大橋の走行音を忘れさせてくれる。

滝にはトンネルが設けられており、芝生広場から飛び石伝いに甲之池を渡り、滝をくぐってトンネルの暗闇を通りぬける神秘的な空間を体感し、どだま獅子や瀬戸大橋を望む明るい空間に飛び出る散策路は、さわやかな驚きを感じる演出を醸している。

⑨ どだま獅子

讃岐の方言で、頭のことを「どだま」といい、この獅子頭は、獅子の中の頭領という意味から「どだま獅子」と名付けられた。

どだま獅子は、瀬戸内海の守り神となることを願い、架橋の橋脚となった島々をはじめ、瀬戸内海周辺の石を集め積み重ね彫刻を加えて製作された。

⑩ 遍路ギャラリー (作者：流政之)

遍路のお札所のように、1番、2番、3番…と名づけられた5か所の円筒形ギャラリー。遍路の心を生かして五つの円筒ギャラリーを作り、荒石で囲み海からの風をよけ橋からの音を防ぎ、中は抜け天井で青い空が見える、いわば天井のない自然のギャラリーである。太陽のひだまりの中で、盆栽市、子どもの遊び場、生け花展、コンサート、彫刻展、時には露天市などの行事で、世界最初の天井のないギャラリーを楽しむことができる。

⑪ Shelter'00 (作者：鈴木典生)

私とか呼ばれている内側にある存在と、その存在の器としての体、心と切り離すことのできない体、またそれらを包み込む自然。

この作品は、自分の体を基準とした大きさのカプセルのふたのようなものを構成したもので、包み覆っている形態である。カプセルのふたには穴が空いており、全身で呼吸しているかのように空気が流れる。我々人間は、地球という大地に守られながら生きていることを表現している。

⑫ 香川県立東山魁夷せとうち美術館

日本画の巨匠、東山魁夷画伯の初期から晩年の作品まで約280点を所蔵し、2005年(平成17年)4月にオープン。画伯の祖父が生まれた櫃石島と瀬戸大橋を望む海辺の美術館である。設計は、ニューヨーク近代美術館の増改築で知られる谷口吉生氏。美しい自然に囲まれ、品格のある建物と作品が一体となり、心の癒しや潤いをもたらしてくれるすてきな美術館。